

[本資料は、高松、松山、八幡浜および東京で発表しています。]

Press Release



平成15年 5月21日
四国電力株式会社

伊方発電所 3号機主給水ポンプ台板の点検について

5月16日、伊方発電所のプラントメーカーである三菱重工業（株）より当社に対し、「協力会社の元従業員から、2次系ポンプ据付台板の製造過程で、過去に不適切な施工を行った旨の投書があった」との情報提供がありました。

投書の内容は、「平成元年から平成6、7年にかけて、少なくとも6台の原子力2次系大型ポンプの台板（重量約10トン）の製造時の溶接に際し、要求仕様に反して、溶接部に鉄筋を挿入または溶接幅を小さくした」というものでした。

このため、伊方発電所2次系ポンプ台板のうち、平成元年から平成7年にかけて製造したもので、重量が10トン程度のものがあるかどうか調査したところ、これに該当するものはありませんでした。しかしながら、念のため、当該期間に製造した2次系ポンプ台板のうち、重量が最も重い伊方3号機のタービン動主給水ポンプ2台と電動主給水ポンプ1台（台板の重量は各々約3.6トン）について、5月18日から調査を実施いたしました。

その結果、

- ・当該ポンプの軸振動などの運転記録に問題のないこと
- ・台板を目視で検査した結果、溶接幅が適切であること
- ・台板の溶接部にドリルで穴を空け、内部に鉄筋のないこと（電動主給水ポンプ）

を確認しました。

このことから、当社は伊方発電所において、投書で指摘された不適切な施工はないと判断いたしました。

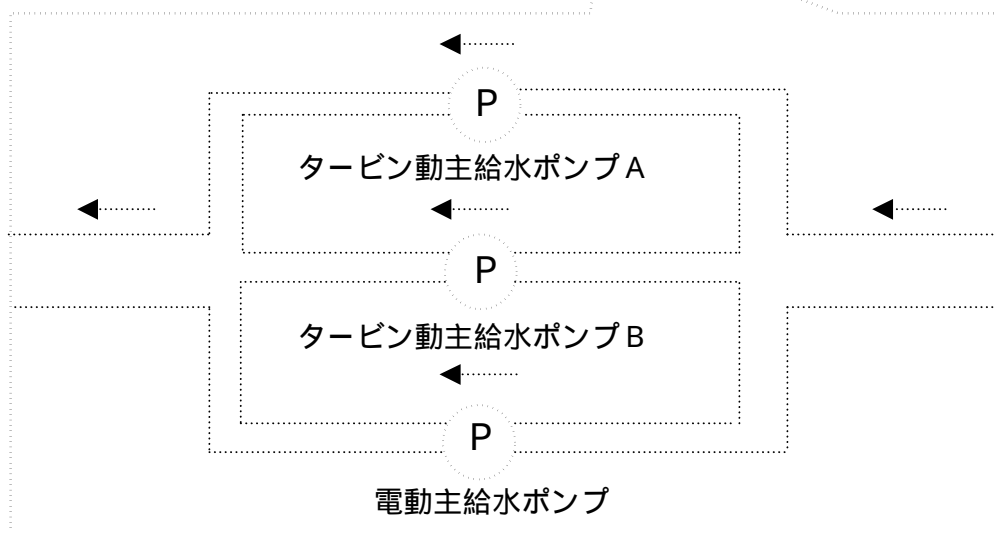
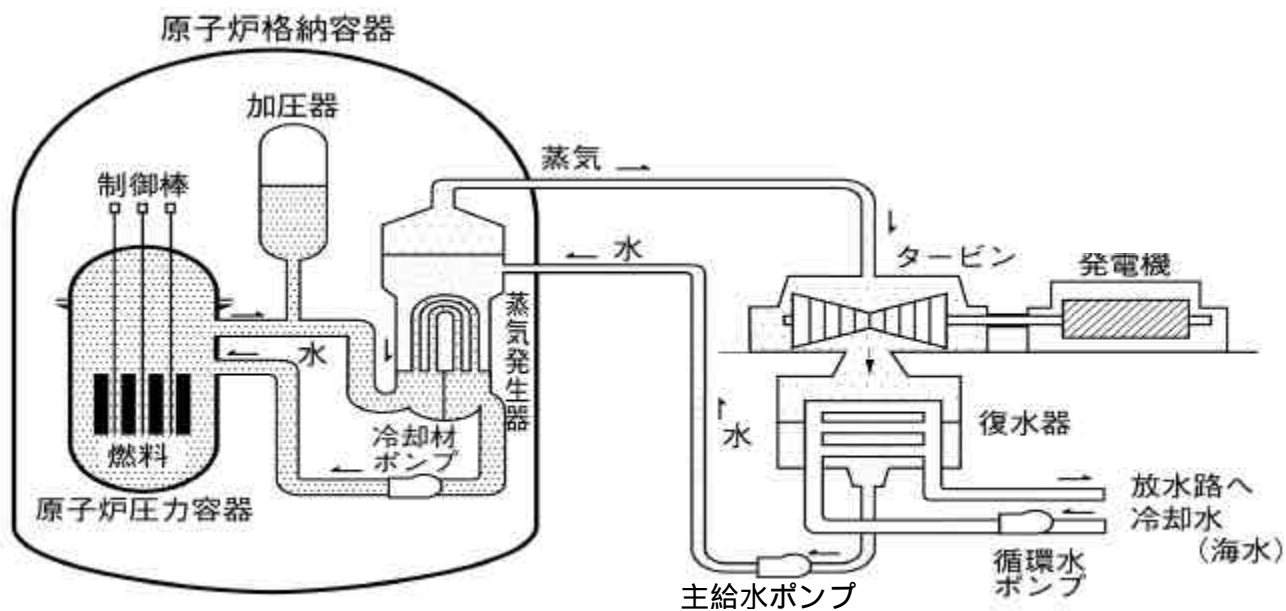
（参考）

主給水ポンプ

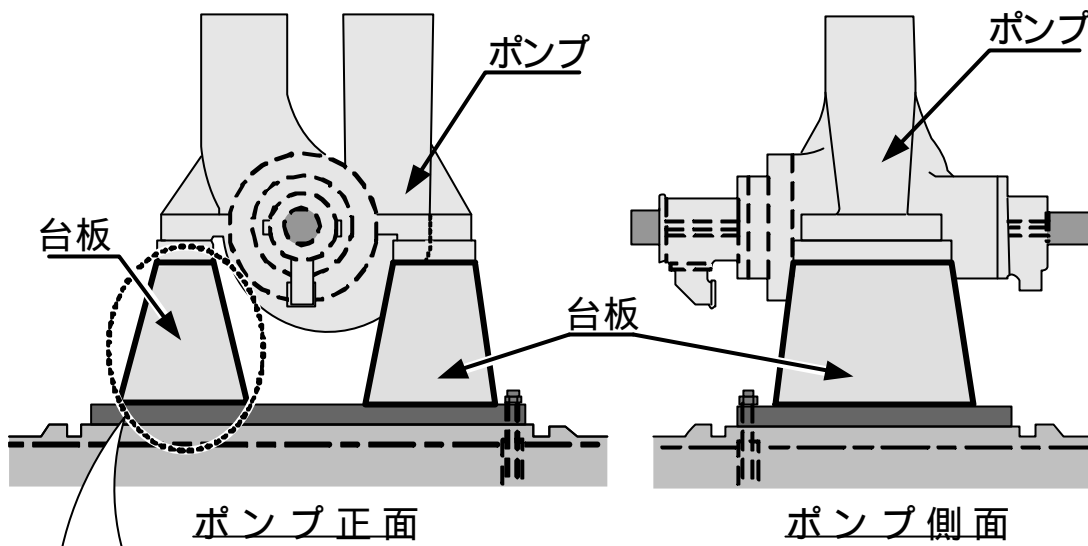
主給水ポンプは、蒸気発生器に給水するためのポンプで3台設置しており、伊方3号機では通常はタービン駆動の2台を運転、電動の1台は予備としている。蒸気発生器で発生した蒸気は、タービンを回転させた後、復水器で水に戻され、再び蒸気発生器に供給されている。

以 上

伊方発電所 3号機 全体系統図

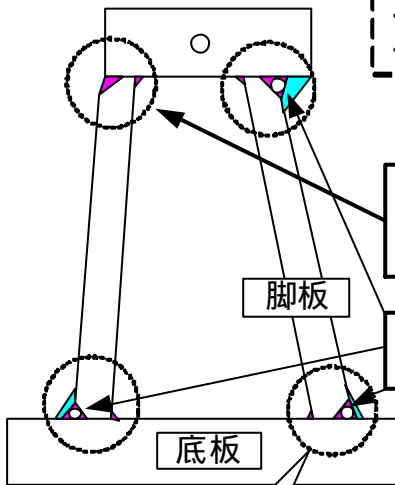


主給水ポンプ台板概略図



投書の内容

投書指摘の溶接作業

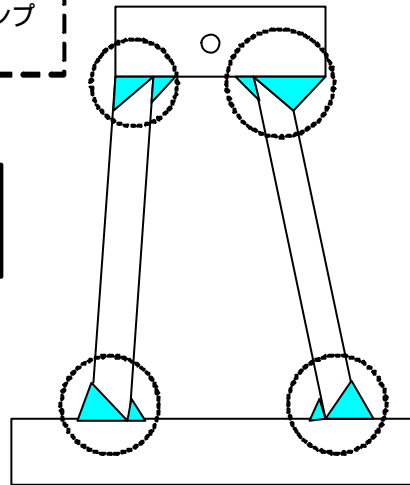


平成元年~平成6,7年製造
原子力の2次系大型ポンプ
台板の重量は約10トン

溶接部
30mmの溶接幅を
10mm程度にした

直径30mm程度の
鉄筋を挿入した

要求仕様



参 考

伊方3号機の主給水ポンプ台板

- ・重量は約3.6トン(類似の台板中最も重い)
- ・台板の板厚は32mm(類似の台板中最も厚い)

(板厚32mmの脚板と底板との溶接部に直径30mmの鉄筋を挿入して溶接した場合、右図のように溶接部の寸法が約60mmになるが 測定の結果 当該部は45mm以下である。)

鉄筋を挿入した場合の台板溶接部

